

あはたのおほきみ
粟田女王の歌一首

四〇六〇番

つきま 月待ちて 家には行かむ 我が挿せる 赤ら橘
かげ み 影に見えつつ

四〇六一番

ほりえ 堀江より 水脈引きしつつ み舟さす 賤男の伴
かは 川の瀬申せ

四〇六二番

なつ よ 夏の夜は 道たづたづし 舟に乗り 川の瀬ごと
さを のほ 棹さし上れ